

安心・安全な活動を行うために 安全スキルを再確認しました！



日本赤十字社香川県支部の藤原淳子氏と川南久仁子氏にご協力いただき、安全スキルアップ講座 & 交流会を行いました。

「実際に体験し、気づくこと」を重視し、グループワークを多く行うことで、安全スキルを高めることができました。

平成19年のスタート以来、たかまつファミサポでは、会員の皆さまに支えられて、大きな怪我や事故もなく活動が行われてきました。これからも、安全に配慮し、楽しく活動を続けていきましょう！



右：藤原淳子先生
左：川南久仁子先生

事故の予防を心掛けることが大切です！

子どもは昨日できなかったことが、今日、突然できてしまって事故が起きることがあります。だからこそ、「今日はひょっとしたら、こういうことができるようになっていけるかもしれないな〜」という思いで、予防を心掛けることが大切です。

子どもへの安全教育も大人の役目です！

危ないことを注意する時は、抽象的な言葉でなく、「こういう風にしようね」と具体的に伝えてあげて。大事な子どもを社会で育てる。繰り返し言うことが安全教育だと思って、危ないことは何度も繰り返し言いましょう。

◎ おねがい ◎



今回参加できなかった会員さんは、事故防止について、再確認をしましょう！

また、今年度のまかせて会員養成講座では、応急処置の実習も行っています。ご希望の方は、ご参加ください。(要予約)

●参加者の声●

- ・ヒヤリ・ハット事例の話し合いがとても参考になった。
- ・子どもの安全に改めて気を配っていかねばならないと思った。

幼児視野体験メガネの体験

子どもの特性の一つに視野の狭さがあげられます。膝立ちになり、幼児の視野が体験できるメガネをかけてみると、横に置いてあるぬいぐるみを見ることができず、幼児のあまりの視野の狭さに驚きます。



子どもの特性を理解した対応のポイント

- * 横断歩道や線路などを渡る時は、**頭を上下左右に動かすことで見える範囲を広げる**ことを教える。
- * 足元が見えていないことを考慮し、子どものペースを考えて歩く。
- * 指さした指が子どもの視野には入らず見えない、理解できないということがありうるため、本当に聞いてもらいたいときは、**子どもの目線に降りて、視野に入るところで、『あそこよ、ここよ』と声をかけましょう。**



チャイルドマウスの確認

3歳の子どもの口を開けたときの最大口径は約39mm、のどの奥までは約51mm。その大きさを確認できるチャイルドマウスにいろいろな物を入れてみると、予想以上に大きな物も口に入ることがわかります。



異物の誤飲防止のポイント

- * プチトマトやブドウといったつるつるする、丸い形状のものは提供の際、特に注意が必要。**半分よりも小さく切って**、提供する。
- * 小さな物、とがった物を**1m以下の低い場所に置かない。**(取れたボタン、クリップ、ホチキスの針、画びょう、ヘアピン、クギ、子どもはなんでも口に入れます。)



止血方法・気道異物除去の演習

子どもが事故にあった時、必要なのは冷静な判断と適切な素早い応急手当です。いざという時、あわててパニックになってしまわないように、応急手当の演習を繰り返しすることはとても大切です。



いざという時の対応のポイント

- * 出血の際には、我々が**余裕をもって、「大丈夫だよ〜」と対応し**、子どもを落ち着かせることが大切。(興奮して出血を増やさないため)
- * 子どもが口に物を入れた**直後には大きな声で叫ばない!**(子どもが大声に驚いた瞬間に飲みこんで、気管支に入るのを防ぐため)

